設楽の城砦（じょうさい）めぐり

―奥平館（おくだいらやかた）編―

奥平館跡

奥平館跡は、通称川口殿屋敷と呼ばれ、西納庫川口地区の中央を流れる本洞川右岸、標高六六〇メートルの台地に構えられた館である。

現在、宅地となる本曲輪一〇アール、南に畑の二曲輪、西に三曲輪、約一〇〇メートル四方の規模で、南側は川と切岸、東と西側は堀が築かれ、北側の山腹斜面を大きな堀切で防御された城館である。

館の主は、作手奥平氏の庶流、初代奥平貞次、二代喜八郎信光である。信光は、名倉奥平氏として永正年間（一五〇四～一五二一）から慶長七年（一六〇二）徳川家康の四男松平忠吉に従い、尾張清洲に移るまで、寺脇城を本城とし、この地域を支配した。この頃信光は、戸田加賀守と称している。

館跡東側の町道上に、津具出身の書道家 長谷川悟石書の「戸田喜八郎信光之碑」が建立されている。

（愛知県文化財保護指導委員　加藤　博俊）